



第5回 大谷・小鹿地区まちづくり検討会議

視点ごとのまちづくり方針について

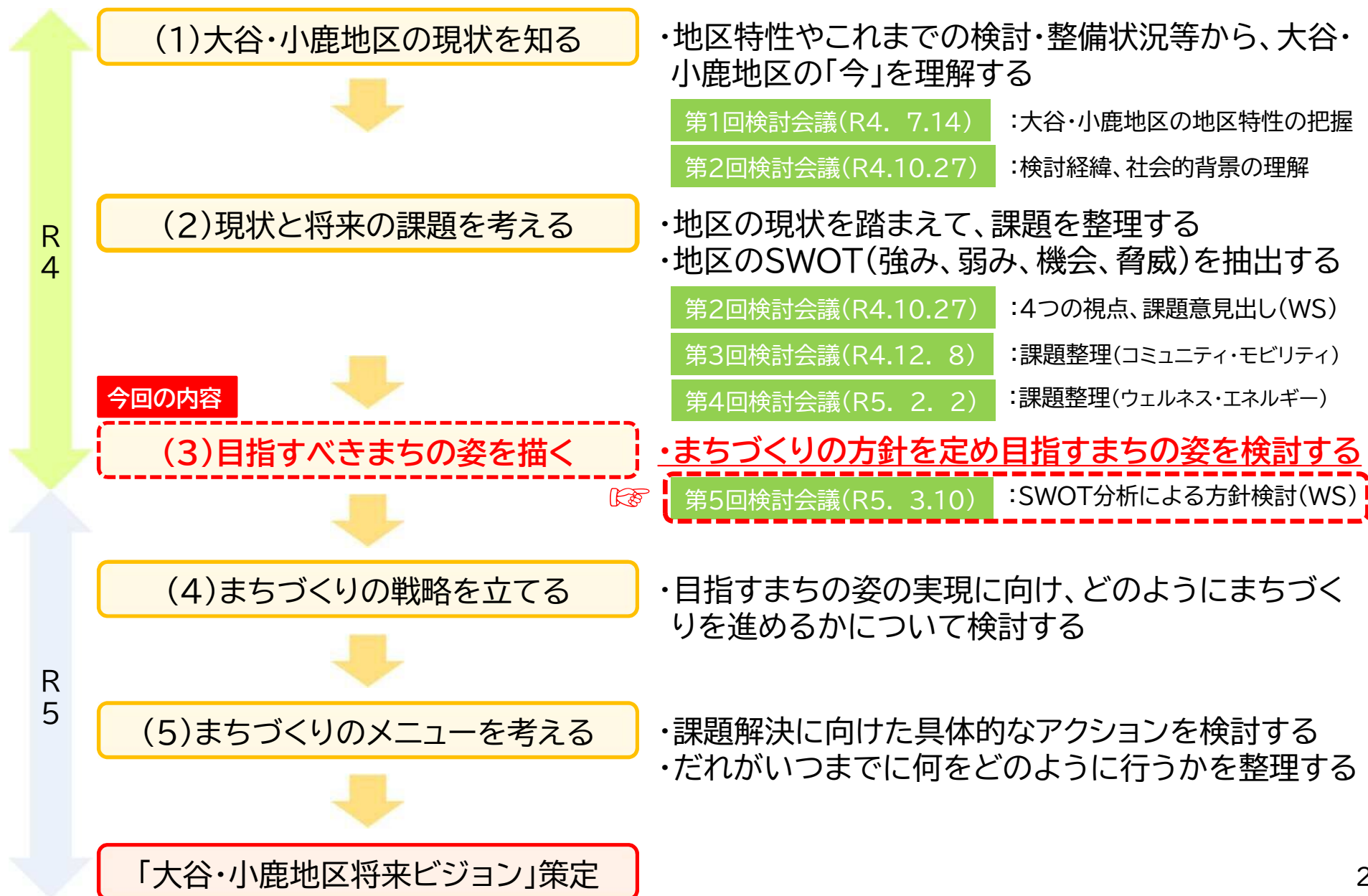


令和5年3月10日



(1) 検討会議における検討・議論の流れ

○検討・議論の流れ



(2) SWOT分析を活用した検討の位置づけ

●これまでの検討と今回の議論（SWOT分析）の関係

前までの内容

第2回検討会議（R4.10.27）・・・意見出し

- 4つ視点から地区の**特徴**や**課題**（**取組テーマ**）について意見出しを行う

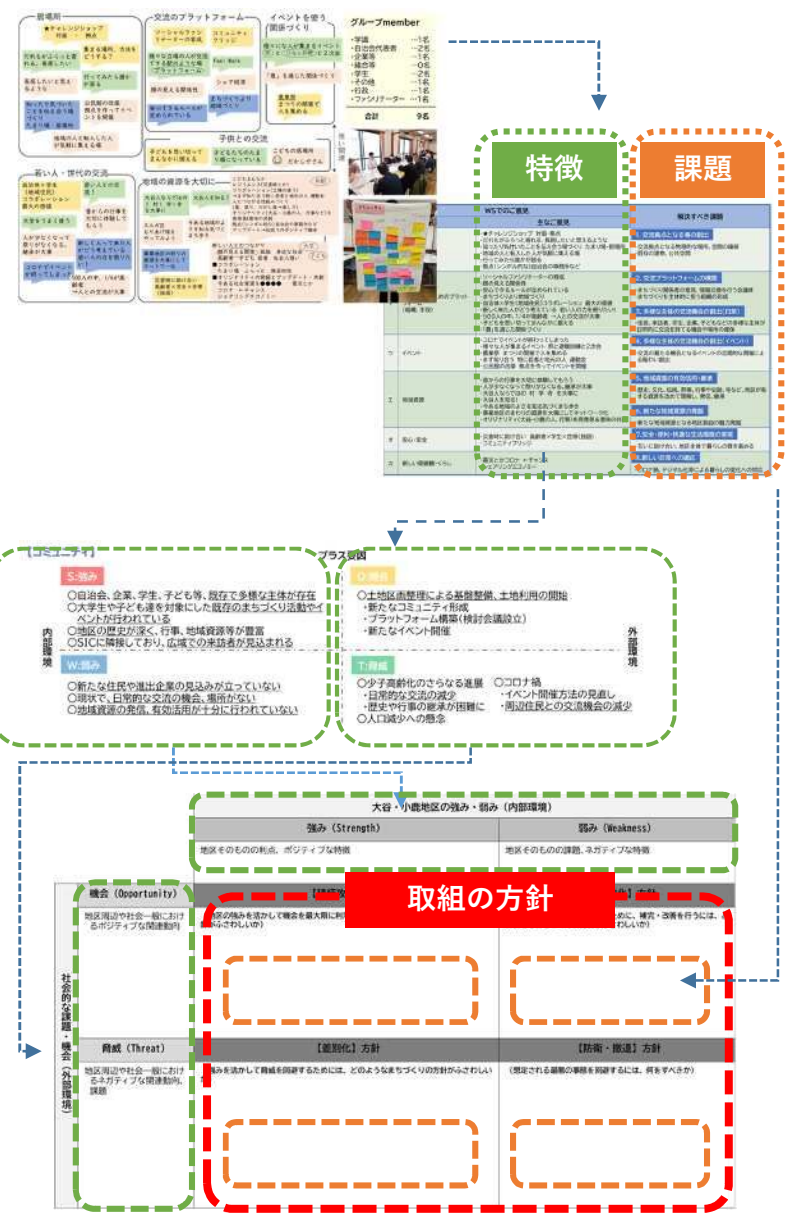
第3回検討会議（R4.12.8）・・・SWOT整理 第4回検討会議（R5.2.2）（地区の特徴）

- 地区の**特徴**に関する意見をもとに、**地区の弱み・強み、機会・脅威**（SWOT：内部・外部環境の状況）の整理を行う

本日の内容

第5回検討会議（R5.3.10）・・・SWOT分析（方針の検討）

- 地区の**弱み・強み、機会・脅威**（SWOT）と、**検討課題**（**取組テーマ**）の関係を再整理し、**今後の地区の取組の方針**について考える（今後、取組みを進める上で地域で共有する共通の考え方や価値観を整理）



(2) SWOT分析における各マスイメージ

●SWOT分析とは

- 地区の特徴に関する **内部環境** と **外部環境** を組み合わせて、**取組の方針を議論・発見するための方法。**
- 内部環境は「強み」と「弱み」、外部環境は「機会」と「脅威」に整理され、それらをかけあわせた四つのマスごとに取組の内容や方針について整理を行う。

		大谷・小鹿地区の強み・弱み（内部環境）	
		強み（Strength）	弱み（Weakness）
社会的な課題・機会（外部環境）	機会（Opportunity）	<p>地区そのものの利点、ポジティブな特徴</p> <p>【積極攻勢】方針</p> <p>・地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか</p> <p>他の地区にはない取組の コンセプト・アピールポイント</p>	<p>地区そのものの課題、ネガティブな特徴</p> <p>【弱手強化】方針</p> <p>・弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか</p> <p>地域の弱点の解決に向けて 適用できる一般的な取組</p>
	脅威（Threat）	<p>地区周辺や社会一般におけるポジティブな関連動向</p> <p>【差別化】方針</p> <p>・強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか</p> <p>社会的な課題解決に向けて 地域独自でできること</p>	<p>地区周辺や社会一般におけるネガティブな関連動向、課題</p> <p>【防衛・撤退】方針</p> <p>・想定される最悪の事態を回避するには、何をすべきか</p> <p>最悪の状況を回避・緩和するための対策や最低限すべきこと</p>

(3) 視点ごとのまちづくり方針について(コミュニティ)



図：増田彩香氏

大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)

		Strength(強み)	Weakness(弱み)
		(S1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 ・新たなまちづくりの機会 ・道路や公園等、新たな公共空間が整備される見込み (S2)自治会、企業、学生、子ども等、既存で多様な主体が存在(NPO、学生団体、社会福祉協議会、小学校等) (S3)大学生や子ども達を対象にした既存のまちづくり活動やイベントが行われている (S4)地区の歴史が深く、行事、地域資源等が豊富(祭事、史跡、自然等) (S5)SICに隣接しており、広域での来訪者が見込まれる (S6)駿河区役所等、比較的近隣に市街地がある (S7)周辺に観光資源が点在(日本平、久能山東照宮等)	(W1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 ・新たな住民や進出企業の見込みが立っていない ・来訪者増加による地区周辺の治安悪化への懸念 (W2)現状で、日常的な交流の機会、場所がない (W3)地域資源の発信、有効活用が十分に行われていない (W4)東名高速道路による南北地区の物理的な分断
		【S×O:積極方針】	【W×O:改善方針・弱点強化】
社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会)	(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント 01 例)〇〇という強み(〇〇の機会)を活かし、〇〇を行う・推進する どんなまちにしたいか、できたらいいなと期待すること 等	(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組 02 例)〇〇という弱みをカバーするため、〇〇を用いて〇〇する 普段困ったり不満に思うこと、改善したいこと 等
	Threat(脅威)	(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること 03 例)〇〇という脅威に備え、地区の強みを活かし、〇〇に取り組む 不安に思うこと、こうしていったらいいのではないかとと思うこと 等	(想定される最悪の事態を回避するためには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策 04 例)〇〇という事態に陥らないように、〇〇をする等の対策・準備をする 最低限守っていくべきもの、現状維持を望むこと 等
		【S×T:差別化方針】	【W×T:影響低減・防衛】

(3) 視点ごとのまちづくり方針について(モビリティ)



大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)			
	Strength(強み)	Weakness(弱み)	
	(S1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 ・新たに道路が整備される見込み ・交通ネットワーク、交通システムの再構築 (S2)SICを活用した自動車の利便性が高い (S3)幹線道路に囲まれた地区である (S4)歩行者や自転車にとって比較的良好な移動環境である (S5)地形が平坦で徒歩移動が容易 (S6)日本平・久能山等、周辺に観光資源が点在	(W1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 (W2)鉄道駅が遠い(静岡駅3.6km、東静岡駅3.1km) (W3)土地区画整理内は、現状でバス停の空白地区となっている (W4)近・中距離の移動は、自動車への依存度(分担率)が高い (W5)開発に伴う自動車交通量の増加による周辺道路の渋滞・事故の増加や駐車場不足への懸念 (W6)バスが静岡駅発着の路線が多く、雨の日に混雑する (W7)シェアサイクル需要が高まり、供給が不足する	
	[S×O:積極方針]	[W×O:改善方針・弱点強化]	
社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会) (O1)デジタル技術の進展 ・自動運転技術 ・移動の最適化(MaaS) ・次世代モビリティの普及 (O2)脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 ・EV車、水素車 (O3)価値観・ライフスタイルの多様化 (O4)各分野のトレンド ・「歩いて楽しいまち」、「ウォークアブルシティ」 ・交通シェア	(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント 01 例)〇〇という強み(〇〇の機会)を活かし、〇〇を行う・推進する どんなまちにしたいか、できたらいいなと期待すること 等	(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組 02 例)〇〇という弱みをカバーするため、〇〇を用いて〇〇する 普段困ったり不満に思うこと、改善したいこと 等
	Threat(脅威) (T1)人口減少・少子高齢化 ・移動困難者の増加 (T2)激甚化する自然災害の懸念 (T3)感染症の流行 (T4)価値観・ライフスタイルの多様化 ・出勤・通学の機会減少	(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること 03 例)〇〇という脅威に備え、地区の強みを活かし、〇〇に取り組む 不安に思うこと、こうしていったらいいのではないかとと思うこと 等	(想定される最悪の事態を回避するには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策 04 例)〇〇という事態に陥らないように、〇〇をする等の対策・準備をする 最低限守っていくべきもの、現状維持を望むこと 等
	[S×T:差別化方針]	[W×T:影響低減・防衛]	

(3) 視点ごとのまちづくり方針について(ウェルネス)



大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)			
	Strength(強み)	Weakness(弱み)	
	(S1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 ・区画整理内および周辺道路の整備 ・企業、施設の誘致 (S2)ウォーキング・ランニング・スポーツに適したスケールメリットがある (S3)地形が平坦で、歩行・自転車等による移動に適している (S4)周辺に山・海・川・緑等、自然環境に囲まれている (S5)海岸や富士山等の眺望が良い場所がある	(W1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 ・歩行空間が十分に整備されていない道路がある ・自動車通行量の増加による歩行しにくい環境への懸念 (W2)ウォーキングコースやランニングコースが設定されていない (W3)目的地となる施設が集積している鉄道駅周辺の徒歩圏外に位置し、移動手段として車に依存してしまう傾向にある (W4)静岡市全体で全国平均に比べて市民の歩数が少なく、歩行する習慣が他都市に比べて定着していない (W5)近隣に総合病院がない	
社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会)	[S×O:積極方針]	[W×O:改善方針・弱点強化]
	(O1)デジタル技術の進展 ・健幸ポイントによる歩行促進 ・データ活用により健康管理 ・オンライン診療 (O2)脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 (O3)価値観・ライフスタイルの多様化 ・健康意識の高まり ・ウェアラブルデバイスの普及による個人の健康・活動データの取得が容易に (O4)各分野のトレンド	(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント 01 例)〇〇という強み(〇〇の機会)を活かし、〇〇を行う・推進する どんなまちにしたいか、できたらいいなと期待すること 等	(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組 02 例)〇〇という弱みをカバーするため、〇〇を用いて〇〇する 普段困ったり不満に思うこと、改善したいこと 等
	Threat(脅威)	[S×T:差別化方針]	[W×T:影響低減・防衛]
	(T1)人口減少・少子高齢化 ・コミュニティの減少、縮小 ・独居等による孤立 (T2)激甚化する自然災害の懸念 (T3)感染症の流行 ・外出機会の減少 ・周辺住民との交流機会減少	(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること 03 例)〇〇という脅威に備え、地区の強みを活かし、〇〇に取り組む 不安に思うこと、こうしていったらいいのではないかとと思うこと 等	(想定される最悪の事態を回避するには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策 04 例)〇〇という事態に陥らないように、〇〇をする等の対策・準備をする 最低限守っていくべきもの、現状維持を望むこと 等

(3) 視点ごとのまちづくり方針について(エネルギー)



図：増田彩香氏

大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)

Strength(強み)	Weakness(弱み)
(S1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 ・区画整理により新たなエネルギーシステムの構築がしやすい ・工場や倉庫など、屋根を利用した太陽光発電がしやすい (S2)地域資源(農地、河川、緑地)を活用したクリーンエネルギーの創出が期待できる(バイオマス、省水力発電等) (S3)恩田原・片山地区が「脱炭素先行地域」に指定されている	(W1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 ・現状で未開発エリアがあり、地区全体のエネルギー需要や担い手が不明確 ・ライフラインが整備途中であり、現状では災害に対応できない (W2)SICからの自動車の流入が多く、環境負荷が大きい (W3)公共交通が不便であり、自動車での移動に依存しがちであり、環境負荷が大きい (W4)地区周辺には高齢者が多く、円滑な非難が困難

社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会)	【S×O:積極方針】	【W×O:改善方針・弱点強化】
	(O1)デジタル技術の進展 ・エネルギーの効率化に向けた先進技術(EMS等)の開発・取組が進んでいる (O2)脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 ・エコ住宅、エコカー等、衣食住における個人省エネ (O3)価値観・ライフスタイルの多様化 (O4)各分野のトレンド ・全国的にナッジを活用した省エネ行動の誘発	(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント 01 例)〇〇という強み(〇〇の機会)を活かし、〇〇を行う・推進する どんなまちにしたいか、できたらいいなと期待すること 等	(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組 02 例)〇〇という弱みをカバーするため、〇〇を用いて〇〇する 普段困ったり不満に思うこと、改善したいこと 等
	Threat(脅威)	【S×T:差別化方針】	【W×T:影響低減・防衛】
	(T1)人口減少・少子高齢化 ・電力需要の低下 (T2)激甚化する自然災害の懸念 ・海岸に近いエリアであり災害(地震、津波)への対策が必要 (T3)感染症の流行 (T4)各分野のトレンド ・全国的な電力不足、電気料金の高騰	(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること 03 例)〇〇という脅威に備え、地区の強みを活かし、〇〇に取り組む 不安に思うこと、こうしていったらいいのではないかとと思うこと 等	(想定される最悪の事態を回避するには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策 04 例)〇〇という事態に陥らないように、〇〇をする等の対策・準備をする 最低限守っていくべきもの、現状維持を望むこと 等

(参考) 視点ごとの課題整理 (コミュニティ)

WSでのご意見		解決すべき課題
分類	主なご意見	
ア	空間・場所	<p>1. 交流拠点となる場の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流拠点となる物理的な場所、空間の確保 ・既存の建物、公共空間
イ	交流・連携のためのプラットフォーム (組織、手段)	<p>2. 交流プラットフォームの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり関係者の意見、情報交換を行う会議体 ・まちづくりを主体的に担う組織の形成 <p>3. 多様な主体の交流機会の創出(日常)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民、来訪者、学生、企業、子どもなどの多様な主体が日常的に交流を持てる機会や場所の確保
ウ	イベント	<p>4. 多様な主体の交流機会の創出(イベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の最たる機会となるイベントの定期的な開催による賑わい創出
エ	地域資源	<p>5. 地域資源の有効活用・継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史、文化、伝統、祭事、行事や史跡、寺など、地区が有する資源を改めて理解し、発信、継承 <p>6. 新たな地域資源の発掘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな地域資源となる地区独自の魅力発掘
オ	安心・安全	<p>7. 安全・便利・快適な生活環境の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いに助け合い、地区全体で暮らしの質を高める
カ	新しい価値観・暮らし	<p>8. 新しい日常への適応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、デジタル化等による暮らしの変化への対応

(参考) 視点ごとの課題整理 (モビリティ)

WSでのご意見		解決すべき課題
分類	主なご意見	
ア	移動環境 (歩行者・自転車)	<p>1. 移動の安全性・快適性向上(歩行者・自転車)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行者・自転車にとって移動しやすい空間の整備 歩道の広さ、平坦性など
イ	移動手段 (近距離移動)	<p>2. 近距離移動の利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民の近隣移動や来訪者の地区内移動の手段確保
ウ	移動手段 (公共交通・多様な交通)	<p>3. 公共交通の利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道、バス、タクシー等、既存の公共交通の利便性向上 <p>4. 多様な移動手段の効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の移動手段を組み合わせ活用 移動手段の多様化への対応
オ	移動手段 (自動車)	<p>5. 自動車利用の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> 過度な自動車利用を避け、自動車利用を適正化する <p>6. 自動運転技術への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動運転技術に対応した道路、施設の整備
カ	移動ニーズの把握	<p>7. 地区周辺移動の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通系情報基盤(既存データ)を活用した移動ニーズの把握、データ活用
キ	物流	<p>8. 物流の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな物流システムの構築 移動販売等、地区内物流の集約化

(参考) 視点ごとの課題整理 (ウェルネス)

WSでのご意見		解決すべき課題
分類	主なご意見	
ア	歩行空間 ×モビリティ	<p>・外に出ることを考えたときに段差や坂などがあるから「別に用もないしやめとこ」という気持ちになる</p> <p>・歩行空間が整備されていない(道がせまい)(自転車)</p> <p>・自転車専用通路と分かれてきているが元の道幅が広がっていないので実質変わっていない</p> <p>・河川敷の再整備(ウォーキングコース)(サイクリングコース)</p> <p>・交通量が多くなった、暗いところも多い</p>
イ	歩く仕掛け(ソフト)	<p>・ウォーキングコース、ウォーキングマップがない</p> <p>・歩くコースがわからない</p> <p>・歩く×食べる、歩く×美の組み合わせ</p> <p>・歩けば歩くほどマイルがたまってポイントになるアプリ入れてから「あともう少し歩こう！」が増えた</p>
ウ	歩く仕掛け(目的地)	<p>・ウォーキングのみを主目的としないコースの整備</p> <p>・商店街との連携</p> <p>・気軽に行ける、フィットネスジム、温浴施設</p> <p>・海岸沿い(R150沿)の道の周囲のにぎわい作りにより「歩こう」と思わせる街づくりをする</p>
エ	マインド	<p>・「歩く」ことが健康につながるということは知っているけれどおっくうになってしまう</p> <p>・ひとりで歩くのが嫌、不安</p> <p>・健康に対する意識が低い</p> <p>・夏暑くて冬寒いからいつ散歩しよう…を考えているうちに1日が終わる</p> <p>・リモートで歩かなくなった(コロナ)</p> <p>・整体で歩き方教えてもらった→歩くのすごい!整体は身近!ってなればいいなと思った</p>
オ	歩きによる交流 ×コミュニティ	<p>・すれ違うときに会話やあいさつができるような関係性があると楽しい。</p> <p>・地域交流会の実施(参加協力できる事)</p> <p>・高齢者、一人暮らしの取組</p>
カ	医療	(関連する意見なし)

1. 移動の安全性・快適性向上(歩行者・自転車)

- ・歩行者・自転車にとって移動しやすい空間の整備
- ・歩道の広さ、平坦性などの確保

※「モビリティ」と共通

2. 歩き、健康維持の動機づくり

- ・歩く、走る、スポーツ等を促す仕掛けをつくる
- ・歩行促進ツール(ウォーキングコース、マップ、アプリ等)の作成、展開

3. 目的地となる魅力あるまちづくり

- ・魅力的な公共空間の整備や施設の誘致
- ・景観への配慮
- ・充実したサービス提供のための運営体制の構築

4. 歩き、健康に関する意識・意欲向上

- ・歩き、健康に関する意識、意欲や知識の向上を図り、個人での運動習慣構築に取り組む
- ・歩き、健康に関する学びの機会をつくる

5. 歩き、健康維持を通じた交流拡大

- ・個々人の健康維持のため、地区単位での取り組み
- ・健康活動団体等をつくり、交流を図る

6. 医療・福祉との連携

- ・医療機関や福祉機関と連携し、病気等を予防
- ・医療へのアクセス性向上等

(参考) 視点ごとの課題整理 (エネルギー)

WSでのご意見		解決すべき課題
分類	主なご意見	
ア	脱炭素	<p>1. 脱炭素社会実現への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 脱炭素を先行的に取組む地区としての発信、意識共有 脱炭素社会実現に向けて、他都市のモデルとなるような先進的な取組を行う
イ	既存資源の有効活用	<p>2. 既存の自然資源の保全・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の緑地や農地等の保全 既存の河川、農産物等を活用した取組み クリーンエネルギーの活用等
ウ	エネルギーの効率化 ・有効利用	<p>3. 地区内での電力の自給自足</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区で自立した効率的なエネルギーシステムの構築 恩田原・片山地区の取組の水平展開等
エ	安心・安全	<p>4. 災害対応力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害に備えた設備やシステムの構築 強靱なライフラインの整備 余剰電力の災害時利用
オ	電気、エネルギーへの意識	<p>5. 個人単位での電力消費の低減(省エネ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人での消費電力抑制 省エネ意識の醸成
カ	自動車依存からの脱却 (環境負荷低減) ×モビリティ	<p>6. 自動車以外の移動手段の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 過度に自動車に依存しない移動環境整備 エネルギーの融通によるモビリティとの連携 環境負荷の低減へと繋げる

(3) 視点ごとのまちづくり方針について(コミュニティ)

事務局案



大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)			
	Strength(強み)	Weakness(弱み)	
	(S1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 ・新たなまちづくり ・道路や公園等、新たな公共空間が整備される見込み (S2)自治会、企業、学生、子ども等、既存で多様な主体が存在 (S3)大学生や子ども達を対象にした既存のまちづくり活動やイベントが行われている (S4)地区の歴史が深く、行事、地域資源等が豊富 (S5)SICに隣接しており、広域での来訪者が見込まれる (S6)駿河区役所等、比較的近隣に市街地がある (S7)日本平や久能山等、周辺に観光資源が点在	(W1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 ・新たな住民や進出企業の見込みが立っていない ・来訪者増加による地区周辺の治安悪化への懸念 (W2)現状で、日常的な交流の機会、場所がない (W3)地域資源の発信、有効活用が十分に行われていない (W4)東名高速道路による南北地区の物理的な分断	
	[S×O:積極方針]	[W×O:改善方針・弱点強化]	
社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会) (O1)デジタル技術の進展 ・web会議システムの導入 ・SNSの活用 ・シェアリングエコノミーの活用 (O2)脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 (O3)価値観・ライフスタイルの多様化 (O4)各分野のトレンド ・エリアマネジメント ・官民連携によるまちづくり	(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント 01 地区内外において、活発な交流を促進する ・ゆとりある公共空間を活用した賑わい・滞在空間の創出(S1×O3) 課題1 ・新たなコミュニティの形成による地区の活性化(S1・S2×O4) ・地区内外からの来訪者にとって魅力的なまちづくりを実施(S1・S5×O4) ・駿河区役所周辺地区や周辺観光地と連携して賑わいを創出(S1・S6・S7×O4) ・多様な主体をターゲットにした様々なイベント、まちづくり活動を開催(S2・S3×O4) 課題4 ・地区の歴史や行事をデジタルや紙媒体として発信・保存(S4×O1) 課題5	(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組 02 新たな人や技術と融合し、一体的なまちを形成する ・デジタル技術の防犯への活用(W1×O1) 課題7 ・エリアプラットフォーム等による地区の見守りを実施(W1×O4) 課題7 ・魅力的なまちづくりに向けた企業誘致の推進(W1×O4) 課題3 ・日常的な交流の場となるコミュニティやエリアプラットフォームの構築および施設・公共空間の整備(W2×O4) 課題1 課題2 ・地区の歴史や行事をデジタルや紙媒体として発信・保存(W3×O1) 課題5 ・各エリアの特色を活かした企業誘致の実施、および、エリア全体を俯瞰的にコントロールするエリアプラットフォームの構築(W4×O4) 課題2
		[S×T:差別化方針]	[W×T:影響低減・防衛]
	Threat(脅威) (T1)人口減少・少子高齢化 ・日常的な交流の減少 ・歴史や行事の継承が困難に (T2)激甚化する自然災害の懸念 (T3)感染症の流行 ・イベント開催が困難に ・周辺住民との交流機会減少	(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること 03 地区の特色を活かし、魅力あるまちを形成する ・高齢者や子ども等を中心としたコミュニティの形成(S1・S2×T1) 課題3 ・高齢者から子どもにも地区の歴史や行事を伝えるイベント、出前講座等を実施(S1・S2・S3×T1) 課題5 ・日常的な交流や滞在が可能となる公共空間の整備(S1×T1) 課題1 ・災害に強いインフラ整備と避難場所となる公共空間整備(S1×T2) 課題6 ・各主体の非常時の役割の明確化、連携強化を図り、地区の防災力を向上(S2×T2) 課題6 ・接触リスクの少ないイベント等工夫によるイベント実施(S3×T3) 課題4 ・屋外アクティビティ等感染リスクの低いコンテンツの整備(S5×T3) 課題7	(想定される最悪の事態を回避するには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策 04 安全・安心かつゆとりある生活を適度に維持する ・既存のコミュニティと新たな住民・企業を含めたエリアプラットフォームの形成(W1×T1) 課題2 ・適切な位置への交番の設置、住民同士の防犯連携(W1×T1) 課題7 ・新たな進出企業に対して、災害協定等により避難場所としての利用や非常時の物資提供を呼びかけ(W1×T2) 課題6 ・高齢者、子どもにとって交流の場となるような場所や機会の提供(W2×T1) 課題1 課題3 ・ゆとりある公共空間や屋外施設の整備(W2×T3) 課題1 ・高齢者から子どもにも地区の歴史や行事を伝えるイベント、出前講座等を実施(W3×T1) 課題5

(3) 視点ごとのまちづくり方針について(モビリティ)

事務局案



大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)

Strength(強み)	Weakness(弱み)
(S1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 ・新たに道路が整備される見込み ・交通ネットワーク、交通システムの再構築 (S2)SICを活用した自動車の利便性が高い (S3)幹線道路に囲まれた地区である (S4)歩行者や自転車にとって比較的良好な移動環境である (S5)地形が平坦で徒歩移動が容易 (S6)日本平・久能山等、周辺に観光資源が点在	(W1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 (W2)鉄道駅が遠い(静岡駅3.6km、東静岡駅3.1km) (W3)土地区画整理内は、現状でバス停の空白地区となっている (W4)近・中距離の移動は、自動車への依存度(分担率)が高い (W5)開発に伴う自動車交通量の増加による周辺道路の渋滞・事故の増加や駐車場不足への懸念

社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会)	[S×O:積極方針]	[W×O:改善方針・弱点強化]
	(O1)デジタル技術の進展 ・自動運転技術 ・移動の最適化(MaaS) ・次世代モビリティの普及 (O2)脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 ・EV車、水素車 (O3)価値観・ライフスタイルの多様化 (O4)各分野のトレンド ・「歩いて楽しいまち」、「ウォークアブルシティ」 ・交通シェア	(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント 01 SICを活かした交通拠点としての役割を担う ・混雑情報や目的地への最適な移動手段等、交通情報の提供(S1・S2×O1) ・自動運転技術等の試験走行を実施(S1×O1) 課題6 ・EV車や水素車のステーション整備(S1×O2) 課題1 課題5 ・SICからの来訪者をターゲットにした交通拠点の整備(S2×O4) 課題4 ・レンタサイクルや次世代モビリティ等、近距離移動や地区内周遊移動手段の充実(S4・S5×O1) 課題2 ・沿道の魅力創出による歩行者中心のまちづくり(S4・S5×O4) 課題1 ・周辺の観光資源との周遊交通の充実(S6×O4) 課題3	(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組 02 公共交通の強化により、移動の利便性を向上する ・新たな基盤整備を契機としたバス路線の再編(W1×O4) 課題3 ・自動運転に対応した道路・駐車場の整備(W1・W3×O1) 課題6 ・地区と鉄道駅との公共交通の強化(W2×O4) 課題3 ・地区内を周遊するコミュニティバスの導入により、自動車への依存度を下げる(W4×O4) 課題4 課題5 ・最適な交通サービスの提供(W4×O1) 課題4 課題5 ・ステーション整備によるEV車、水素車の普及促進(W4×O2) 課題1 ・混雑情報や目的地への最適な移動手段等、交通情報の提供(W5×O1) 課題7
	Threat(脅威)	[S×T:差別化方針]	[W×T:影響低減・防衛]
	(T1)人口減少・少子高齢化 ・移動困難者の増加 (T2)激甚化する自然災害の懸念 (T3)感染症の流行 (T4)価値観・ライフスタイルの多様化 ・出勤・通学の機会減少	(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること 03 誰もが安全・快適に移動できる交通環境を整える ・歩行者・自転車等の安全対策の実施(S1・S2・S3×T1) 課題1 ・地区独自の交通ルールの構築(速度制限、車両進入可能エリアの限定)(S1・S2・S3×T1) 高齢者が利用しやすい交通サービスの導入(低床バス、デマンド交通)(S1×T1) 課題3 課題4 課題4 ・災害に強いインフラ整備(緊急輸送路啓開、無電柱化等)(S2・S3×T2) ・高齢者が移動しやすい道路環境整備(S4・S5×T1) 課題1	(想定される最悪の事態を回避するには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策 04 交通サービス充実により、移動の機会や動機を増やす ・高齢者が利用しやすい交通サービスの導入(W1×T1) 課題3 課題4 ・高齢者の移動機会の創出(健康関連イベント・施設との連携)(W1・W2・W3×T1・T4) 課題2 ・公共交通利用に関するインセンティブの提供(地域ポイントの付与など)(W4・W5×T4) 課題2 課題4

(3) 視点ごとのまちづくり方針について(ウェルネス)

事務局案



大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)		
	Strength(強み)	Weakness(弱み)
	<p>(S1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区画整理内および周辺道路の整備 ・企業、施設の誘致 <p>(S2)ウォーキング・ランニング・スポーツに適したスケールメリットがある</p> <p>(S3)地形が平坦で、歩行・自転車等による移動に適している</p> <p>(S4)周辺に山・海・川・緑等、自然環境に囲まれている</p> <p>(S5)海岸や富士山等の眺望が良い場所がある</p>	<p>(W1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行空間が十分に整備されていない道路がある ・自動車通行量の増加による歩行しにくい環境への懸念 <p>(W2)ウォーキングコースやランニングコースが設定されていない</p> <p>(W3)目的地となる施設が集積している鉄道駅周辺の徒歩圏外に位置し、移動手段として車に依存してしまう傾向にある</p> <p>(W4)静岡県全体で全国平均に比べて市民の歩数が少なく、歩行する習慣が他都市に比べて定着していない</p> <p>(W5)近隣に総合病院がない</p>
	【S×O:積極方針】	【W×O:改善方針・弱点強化】
<p>Opportunity(機会)</p> <p>(O1)デジタル技術の進展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健幸ポイントによる歩行促進 ・データ活用により健康管理 ・オンライン診療 <p>(O2)脱炭素社会の実現に向けた取組の加速</p> <p>(O3)価値観・ライフスタイルの多様化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康意識の高まり ・ウェアラブルデバイスの普及による個人の健康・活動データの取得が容易に <p>(O4)各分野のトレンド</p>	<p>(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか)</p> <p>※一番のコンセプト・アピールポイント</p> <p>01 歩いて暮らせるまちの仕組みをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行者、自転車にとって移動しやすい空間の整備(歩道の広さ、平坦性等)(S1) 課題1 課題1 ・魅力的な企業、施設の誘致により、目的地となるまちづくり(S1) 課題3 ・健康ポイント等を活用した歩行の動機づくり(S1×O1) 課題2 ・歩行者・自転車中心の自動車に依存しないまちづくり(S1・S2・S3×O2) 課題5 課題6 ・歩き、健康に関する意識・意欲向上、健康維持を通じた交流拡大(S1・S2・S3×O3) 課題4 ・自然環境や眺望を活かしたウォーキングコース、ランニングコースの設定(S2・S3・S4・S5) 課題2 	<p>(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか)</p> <p>※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組</p> <p>02 健康への意識を高め、歩くことを推進する 課題6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車に依存しない移動手段、移動環境の整備(W1・W3×O2) 課題5 ・歩行等に適したウォーキングコース、ランニングコースの設定(W1・W2×O3) 課題2 課題2 ・健康ポイント等、歩行へのインセンティブを付与し歩行を促進(W4×O1) ・歩き、健康に関する学びの機会をつくる(研修会・勉強会等)(W4×O3) ・健康データやオンライン診療による健康管理システムの構築(W5×O1) ・個人による健康管理の促進および環境整備(W5×O3) 課題5 課題6 <p>課題4</p>
	【S×T:差別化方針】	【W×T:影響低減・防衛】
<p>Threat(脅威)</p> <p>(T1)人口減少・少子高齢化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの減少、縮小 ・独居等による孤立 <p>(T2)激甚化する自然災害の懸念</p> <p>(T3)感染症の流行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出機会の減少 ・周辺住民との交流機会減少 	<p>(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか)</p> <p>※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること</p> <p>03 外出動機となるまちの賑わいをつくる 課題3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるまちづくりによるまちの活性化、人口減少の抑制(S1×T1) ・災害に強いインフラ整備と避難場所となる公共空間整備(S1×T2) 課題4 ・ゆとりある公共空間、非接触型の施設整備等の整備(S1×T3) ・滞留場所となる公共空間、施設整備(S1×T3) 課題1 ・スポーツ広場、フィットネスジム、温浴施設等、健康維持関連施設の誘致、整備(S2・S3×T1・T3) 課題3 ・自然環境を活かしたウォーキングイベント等の実施(S4・S5×T1・T3) 課題5 	<p>(想定される最悪の事態を回避するには、何をすべきか)</p> <p>※最悪の状況回避のための予防策</p> <p>04 高齢者や子どもが気軽に外出できる環境をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や子どもが安心して歩行できる環境づくり(歩行者動線、自動車動線を明確にする等)(W1×T1・T3) 課題1 課題1 ・高齢者にとって運動しやすいウォーキングコース、スポーツ広場の整備(W1・W2×T1) 課題1 ・高齢者が利用しやすい交通サービスの充実(W3×T1) 課題3 ・高齢者の移動機会の創出(健康関連イベント・施設との連携)(W4×T1・T3) 課題3 課題5 ・歩き、健康に関する学びの機会をつくる(研修会・勉強会等)(W4×T1・T3) 課題4 ・巡回診療・出張診療等、医療・福祉との連携を強化(W5×T1・T3) 課題6

社会的な課題・機会(外部環境)

(3) 視点ごとのまちづくり方針について(エネルギー)

事務局案



大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)			
	Strength(強み)	Weakness(弱み)	
	(S1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 ・区画整理により新たなエネルギーシステムの構築がしやすい ・工場や倉庫など、屋根を利用した太陽光発電がしやすい (S2)地域資源(農地、河川、緑地)を活用したクリーンエネルギーの創出が期待できる(バイオマス、省水力発電等) (S3)恩田原・片山地区が「脱炭素先行地域」に指定されている	(W1)土地区画整理による基盤整備および土地利用の推進 ・現状で未開発エリアがあり、地区全体のエネルギー需要や担い手が不明確 ・ライフラインが整備途中であり、現状では災害に対応できない (W2)SICからの自動車の流入が多く、環境負荷が大きい (W3)公共交通が不便であり、自動車での移動に依存しがちであり、環境負荷が大きい (W4)地区周辺には高齢者が多く、円滑な非難が困難	
社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会)	[S×O:積極方針]	[W×O:改善方針・弱点強化]
	(O1)デジタル技術の進展 ・エネルギーの効率化に向けた先進技術(EMS等)の開発・取組が進んでいる (O2)脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 ・エコ住宅、エコカー等、衣食住における個人省エネ (O3)価値観・ライフスタイルの多様化 (O4)各分野のトレンド ・全国的にナッジを活用した省エネ行動の誘発	(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント 01 地区にとって最適なエネルギーシステムを構築する ・地区に適したエネルギーシステムを構築し、エネルギー効率の最適化を図る(S1×O1) 課題3 ・地区への進出者、進出企業に対し、ZEHやZEBおよび太陽光発電システムの導入を呼びかける(S1×O2) 課題3 ・脱炭素を先行的に取組む地区として意識共有を図る(S1×O2) 課題1 ・地区住民に対し、ナッジ等を活用し省エネ行動を誘発(S1×O4) 課題5 ・バイオマス発電や水力発電等、地域資源を活用したクリーンエネルギーを創出(S2×O2) 課題2 ・恩田原・片山地区の取組み(PPAによる太陽光余剰電力活用)の水平展開(S3×O2) 課題3	(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組 02 移動手段を転換することにより、環境負荷を低減する ・地区進出者、企業に対し、ZEHやZEBおよび太陽光発電システムの導入への協力を仰ぐ(W1×O1) 課題3 ・SICからの自動車を他の交通へと転換する仕組みづくり(集約駐車場、公共交通の充実)(W2×O2) 課題4 ・最適な交通サービスの提供(W3×O2) 課題4 課題5 ・ステーション整備によるEV車、水素車の普及促進(W3×O2) 課題1 ・混雑情報や目的地への最適な移動手段等、交通情報の提供(W3×O2) ・災害に強いデマンド型交通の充実(W4×O1) 課題7
	Threat(脅威)	[S×T:差別化方針]	[W×T:影響低減・防衛]
	(T1)人口減少・少子高齢化 ・電力需要の低下 (T2)激甚化する自然災害の懸念 ・海岸に近いエリアであり災害(地震、津波)への対策が必要 (T3)感染症の流行 (T4))各分野のトレンド ・全国的な電力不足、電気料金の高騰	(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること 03 エネルギーの安全・安心を確保する ・余剰電力の蓄電システムの構築および供給エリアの拡大(S1×T1) 課題3 ・災害に強いインフラ整備およびエネルギーシステムの構築(S1・S2・S3×T2) 課題4 ・自立したエネルギーシステムの構築による電気料金の高騰を抑制(S1・S2・S3×T4) 課題5 ・空地、低未利用地を活用したクリーンエネルギー発電の実施(S2×T1) 課題2	(想定される最悪の事態を回避するためには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策 04 個人単位での省エネ活動を推進する ・個人単位での省エネ行動の推進(W1×T4) 課題5 ・電力需要が見込まれる土地利用を見据えた企業誘致(W1×T1・T4) ・現時点での災害時の避難方法、避難場所および共助等の役割分担について情報共有を図る(W1・W4×T1・T2) 課題4 ・緑地帯等による干渉帯により環境負荷を低減(W2・W3) 課題2